

FVI「声なき者の友」の輪
Friends with the Voiceless International



2013年 秋号

URL : <http://www.karashi.net/>

「声なき声」に耳を傾けよう

福島県立博物館館長・学習院大学教授・民俗学者で「東北学」を提唱しておられる赤坂憲雄氏の講演を聞きました。2011年8月岩手県陸前高田市の高田松原の松に震災遺族らがメッセージを記して京都の「五山送り火」の薪にする計画が放射能汚染を懸念する声を受けて中止されたこと、同9月、福島県産の花火を「放射能をまき散らす恐れがある」という市民からの声を受けて使用中止にした愛知県日進町などいくつもの具体例を挙げながら、新しい差別の形が始まっていると語っておられました。

確かに福島で活動する間に、福島ナンバーをつけた車が宿泊を拒否された例、子育てをしている母親たちが「戸籍を変えたい」と言っておられることなど、数多くの不当な差別と思われる事例を聞かされ心の痛む思いをさせられてきました。

首都圏に電力を供給する「植民地」として福島をさんざん利用しておきながら、一たび事故が起これば掌をかえしたように福島を「ケガレたもの」として切り捨てようとする心無さに怒りにも似た思いを持つてしまうのは私だけでしょうか。

陸前高田市は福島第一原発から約250キロ、ほぼ同じ距離の東京からも放射能が検出されているにもかかわらず、放射能被害は東京には絶対に及ばせないと語って「安全」をアピールすることによって安倍首相はオリンピック招致を実現させました。放射能は福島に閉じ込めたことにおけば、東京は安全・きれいに保てると言いたいのでしょうか。

福島そして東北をスケープゴートにしてはなりません。日本列島の至る所で発せられている声なき声を聴き続け、この方々と共に生きるところにこそ、日本の希望と新しい可能性があると信じて疑いません。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

* FVIの働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。献金をもって各カタリストをご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。